

## 組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 学生支援センター

	組織目標	達成状況(成果)
教育	・キャリア教育における内容の改善およびキャリア教育体系の見直しを行う。	・キャリア形成基礎講座Ⅰは、内容の充実を図るためにテキストを一新した。 ・キャリア形成基礎講座Ⅱは、社会で必要な力を明確にするために企業の協力を得て、内容をより明確にし実施した。 ・キャリア教育を体系づけるため、全学共通のキャリア教育基礎科目、全学共通キャリア教育実践科目、単位認定のない実習を用意し、時代の変化に対応し、多様な学生の選択肢を拡げた。
		達成度： 4 ③ 2 1
研究	学生相談室 ・来談学生の相談内容の分析を行う。 キャリア支援室 ・キャリア教育の授業におけるアンケートの分析を行う。 ・留学生の就職に対する意識、動向調査の分析を行う。	学生相談室 ・H21年度の相談室延利用件数は、2月末現在で既に昨年を超えた。相談内容の分析結果では、H20年度に比べて学部生は修学相談が増加し、大学院生は進路に関する相談が増加していた。  キャリア支援室 ・キャリア関連のすべての授業において授業後アンケートを行い、コミュニケーション等の能動型授業や体験・実践型授業の有効性を確認した。 ・留学生490人を対象に就職意識に関するアンケート調査を行い、236名から回答を獲得 分析結果をセンター年報にて発表した。
		達成度： ④ 3 2 1
センター業務	学生相談 ・学生相談のさらなる充実を図る。  障害学生支援 ・学生支援センターの中に、新たに障害学生(バリアフリー)支援室を設けて、障害がある学生への支援対策等を企画、実行する。  キャリア支援 ・就職活動学生に対するキャリア支援の情報提供及び個人指導の充実を図る。  学生生活支援 ・福利厚生施設等の整備・拡充を図るための方策を検討し、学生サービスの向上を図る。 ・大学院生に新たな奨学制度の検討を行う。また、経済的支援型の授業料免除制度について、検証結果をもとに改善を図り、継続して実施する。  課外活動支援 ・全学の課外活動施設の再点検を行い、施設のさらなる充実に努める。	学生相談 ・鹿田地区に学生支援センター鹿田相談室を開室(週2日)、鹿田地区での相談業務を開始した。また学生をカルト被害から守るために、研修会の開催、「学生相談室だより」でのカルト特集記事の掲載などの啓発活動をおこなった。  障がい学生支援 ・障がい学生支援室の設置、コーディネーターの採用、障がい学生支援研修会及び障がい疑似体験行事を実施した。また障がい学生の在籍する部局において個別の支援策等を検討するために設置した「障がい学生個別支援連絡会議」も開催され、障がい学生や直接担当している部局教員からの意見や要望を検討することにより障がい学生の支援体制も構築された。  キャリア支援 ・求人情報に加え過去の受験情報についても、自宅からの閲覧が可能な就職ナビシステムを利用し情報公開した。また、個人指導の充実を図るために、CDAを取得している職員のアドバイジングや内定の決まった学生による相談体制を構築した。  学生生活支援 ・津島地区においては、東福利施設の新設による拡充を行った。更に、平成21年末までの福利厚生施設の利用状況を基に、学生支援センター学生生活支援部会において新たな施設の必要性について検討した。 鹿田地区においては、食堂のサービス向上のため、食堂運営事業者を公募により選定することとなり、「岡山大学生生活協同組合」を平成22年4月1日以降の記念会館食堂等運営事業者に決定した。 ・大学院生を対象とする奨学制度として、「岡山大学成績優秀学生等奨学金・研究奨励金に関する取扱要項」を制定し、平成22年度より学会で発表した学生に支給する「研究奨励金」等の実施体制を整えた。 経済的支援型の授業料免除については、本年度前期から半額免除を優先的に実施しているが、免除になる学生が増えたため、学生の評価も良好であることから、このまま継続して実施することとした。  課外活動支援 ・課外活動施設の充実のため、随時巡視を行った。従前からの継続案件である清水記念体育館及び第二体育館の温水シャワー設置及びトイレ改修、ハンドボールコートフェンス改修などを行った。また、鹿田地区にあっては弓道場改修及びサークル棟の新築を行った。 ・より多くの学生を表彰できるように文化体育に関する学生表彰の制度を改善した。
		達成度： ④ 3 2 1
社会貢献	ボランティア活動支援 ・学生の社会生活体験の一環として、近隣町内会の溝掃除の手伝い等、地域社会に貢献するボランティア活動を推奨する。	ボランティア活動支援 ・津島地区大学周辺の町内会長との懇談会で要望のあった溝掃除の手伝い等について、校友会と連携して地域貢献ボランティア活動の一環として支援を行った。
		達成度： ④ 3 2 1

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。

障がい学生支援室の設置、大学院生を対象とした「研究奨励金」制度の制定、文化体育に関する学生表彰制度の改善など、センター業務を中心に組織目標として掲げた内容については、いずれも目標を達成できたと考える。次年度は「研究奨励金」制度が本格的に実施されるが、実施上不都合な点が生じた場合は適宜見直しなど、「学生のための学生支援」を目指して柔軟に対応していきたい。

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)